こども夢新聞

KODOMO DREAM NEWSPAPER

協　力

読売新聞

大阪マラソンに迫る！

カメラを手に大阪マラソンを取材するこども記者たち

Contents

2019年度こども記者活動報告

2　日本人男女トップインタビュー

3　市民ランナーの声

4·5　支える人たち

こども 夢・創造プロジェクト

6·7　前期プログラム活動報告

「こども 夢・創造プロジェクト」は、さまざまな分野の「プロフェッショナル」を講師に迎え、小・中学生のあこがれの分野や技術、作品づくりなどを本格的に体験できるプログラムです。第9回大阪マラソンでは小中学生が、新聞記者やカメラマンの指導を受け、ランナーらを取材しました。

プロフェッショナルの世界を実際に体験する貴重なチャンス！

「おもしろそう！」「やりたい！」その気持ちがあればOK！

自分の新たな才能に気づくかも！？

読売KODOMO新聞

よみうりこどもしんぶん

読売 KODOMO 新聞
申込はこちらまで

毎週木曜日発行

月額 550 円（税込み）

読売中高生新聞

読売中高生新聞
申込はこちらまで

毎週金曜日発行

月額 850 円（税込み）

問い合わせ先　読売新聞社 0120-4343-81

https://434381.yomiuri.co.jp

お客様の個人情報は、読売新聞社及びお客様の地域を担当する読売センター（YC）が共同で取得・管理し、配達・集金業務の遂行、各種サービス・イベントのお知らせ、ご購読の延長・再開のお勧め、YC 及び読売グループが協力する・提携する企業等の商品・サービスのご案内、宅配業務などに利用させていただきます。

2019年 こども新聞記者 活動報告

9人が取材体験

「こども新聞記者」を体験したのは、小学5年から中学1年までの男子5人、女子4人の計9人です。読売新聞が協力し、全参加者が募金に協力するチャリティーマラソンとして行われる「第9回大阪マラソン」を取材しました。

大会前日の11月30日は、タレントで大阪マラソン応援団長の森脇健児さんを取材し、大会を支えている企業・団体の担当者や、ボランティアの皆さんにも話を聞きました。

大会当日の12月1日には、大阪マラソンアンバサダーとして大会を盛り上げ、ランナーを励ました元プロ野球阪神タイガースの赤星憲広さんと、ロンドン五輪100㍍背泳ぎ銅メダリストの寺川綾さんをインタビュー。日本勢で男女トップの井上錬さんと木下裕美子さんや、全国から参加した市民ランナーの皆さんにも話をうかがいました。

取材に応じて下さった方々をはじめ、運営面でご協力をいただいた大阪マラソン組織委員会の皆さん、本当にありがとうございました。

（文中の肩書、年齢は取材当時のものです）

入賞者を取材する子ども記者

【中学1年】中山 朝登 記者

【中学1年】中川 崇 記者

【中学1年】戸田 晴葵 記者

【小学6年】山田 寧々 記者

【小学5年】奥田 啓太 記者

【小学5年】多賀谷 碧 記者

【小学5年】西田 吾怜 記者

【小学5年】田渕 咲夏 記者

【小学5年】川澄 芽生 記者

日本人男子トップ 井上 錬さん

「挑戦してよかった」

フルマラソン初挑戦の井上錬さん（21）（SGホールディングス）は、日本人男子トップの9位でゴールしました。故障に悩まされながらも地道でつらい練習をこなし、目標の2時間20分以内を達成した井上さんの思いを、こども記者たちは丹念に引き出しました。

井上さんは、「スタート地点に立った時、きんちょうした」と言っていました。でも、走っている時は、「しんどい」ではなく、「大阪の名所を走れてうれしい」という気持ちの方が強かったそうです。それでも、しんどくなった時は、家族や応援してくれている人を思い浮かべて走りました。ゴールした時は「挑戦してよかった」と思ったそうです。初めてのフルマラソンで、日本人トップの9位はすごいと感心しました。【川澄芽生記者】

井上さんに競技歴を尋ねると、「小学生の時は水泳と野球をしていたが、中学の時に駅伝大会で優勝し、自分はマラソンの方が向いているのではないかと思い、始めた」と教えてくれました。僕は今、スポーツカメラマンを目指していますが、ほかに眠っている才能があるかもしれません。井上さんのように、色々なことにチャレンジしようと思いました。【中山朝登記者】

井上さんは、今年けがが多く、実際に走るトレーニングがなかなかできませんでした。それでも、けがをしていても出来るトレーニングを地道に繰り返したことで、今回、良い成績を残すことができたそうです。井上さんがけがをしてもあきらめず、がんばって練習をしていたと聞いて、ぼくも何事もあきらめないようにしたいと思いました。【戸田晴葵記者】

日本人男子1位の井上錬さん

日本人女子トップ 木下 裕美子さん

日本人女子1位の木下裕美子さん

「人間力が上がると感じる」

日本人女子でトップの木下裕美子さん（33）（東京陸協）は、快調に飛ばした前半から一転し、後半のアップダウンに苦しみながらも笑顔でゴールしました。「自己ベストの更新が目標」という木下さんに、こども記者たちはマラソンの魅力などを尋ねました。

木下さんは、「日本代表になるという夢はあまりなくて、自己ベストを更新したいと思って走っている」といい、毎日欠かさず、筋トレや体幹トレーニングをしているそうです。また、「マラソンは、なかなか思い通りにいかないことが多い。でも、完走したときに、<自分の人間力が上がる>と感じる」と語ってくれました。自分の目標や競技への思いを話す姿が、とても輝いて見えました。【山田寧々記者】

木下さんが、「前半に飛ばしすぎて、後半は脚にきてしまった。いたかった」と話しているのを聞き、やっぱり、自分のペースで走ることが大切だと思いました。【奥田啓太記者】

今年の大阪マラソンのコースの良いところを尋ねると、木下さんは「折り返しが多く、すれ違うランナーから、たくさん応援をもらえたところ」と笑顔で教えてくれました。【多賀谷碧記者】

大阪マラソンは今回、コースが変更されました。新しいコースについて感想を聞くと、井上さんも、木下さんも「後半のアップダウンがきつかった」と答えました。でも、沿道の声援に励まされ、「一人で走っているのではないと感じた」と言っていました。二人とも、自己ベストの更新を目指して日々、つらい練習をしているのはすごいと思いました。ぼくなら、三日くらいでやめてしまいそうです。努力したからこそ、いい結果を残せたのだと思います。木下さん、井上さん、これからもがんばってください。【西田吾怜記者】

市民ランナー

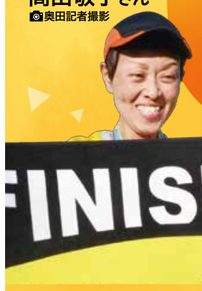
ディズニー映画「アラジン」のジーニーになりきった広瀬俊幸さん（51）（大阪府豊中市）は、抽選倍率4倍以上の大阪マラソンで7回目の参加という強運の持ち主。最初の頃はタイムを考えて走っていましたが、途中から「みんなに楽しんでもらいたい」と仮装を始めました。2年前はピカチュウ、1年前は「ひょっこりはん」の仮装で走ったそうです。【多賀谷碧記者】

広瀬俊幸さん
川澄記者撮影

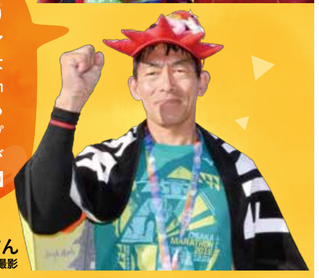
夫婦でアメリカンコミックのヒーロー姿で目を引いたのは吉田翔大さん（31）と瑠璃子さん（28）（いずれも大阪市城東区）。瑠璃子さんは、第5回大阪マラソンに続いて2回目の挑戦で、「マラソンは好きじゃない」という翔大さんをむりやりさそいました。二人は完走後、「自分たちの子どもに自慢できるように、がんばりました」と、うれしそうでした。【多賀谷碧記者】

吉田翔大さん
瑠璃子さん
中山記者撮影

高田敬子さん（47）（大阪市平野区）は、約２週間前の神戸マラソンに続いて、大阪マラソンを完走しました。体力の回復が遅く、神戸よりタイムは落ちましたが、大阪の方が圧倒的に応援する人が多かったそうです。「ハイタッチをしてくれたり、楽しませてくれたりする人たちに感動し、元気をもらえました」「次は、（ランナーを支える）ボランティアで参加したい」と話してくれました。【戸田晴葵記者】


高田敬子さん
奥田記者撮影

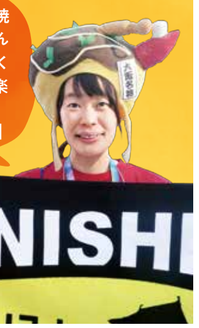
兵庫県明石市在住の伊藤恒明さん（52）は、地元名産のタコのかぶり物をして走りました。約30年前にマラソンを始め、これまでに70～80大会に出場したそうです。延べ3000㎞も走ってきたことになるので、おどろきました。一般ランナーの中でも、プロ級だなと思いました。これからもがんばってほしいです。【中川崇記者】


伊藤恒明さん
中川記者撮影

「デビルマン」の仮装で走った當田英暁さん（43）（大阪府豊中市）は、フルマラソンは初挑戦でした。私が「疲れた時や、しんどい時、どうやって乗り越えたんですか」と聞くと、「早く帰って、ビール飲みてぇなぁって思ってたよ」という答えが返ってきました。少し驚きましたが、人それぞれだなあと思い、笑ってしまいました。沿道の声援が印象に残ったそうで、「声の途切れる隙間がなかった」と驚いていました。【山田寧々記者】

當田英暁さん
戸田記者撮影

職場の同僚とおそろいのたこ焼きの仮装で参加した里井夏野さん（31）（京都市上京区）は、「すごくしんどかったけど、終わったら楽しかった」と笑顔を見せました。【田渕咲夏記者】



里井夏野さん
田渕記者撮影

受付ボランティア

大阪マラソンのボランティアは5回目という宇治田篤さん（47）（兵庫県伊丹市）は、受付を訪れたランナーにゼッケンを渡す仕事を担当しました。「がんばってください」という思いを込めながら、一人一人にゼッケンを渡していました。以前、交通整理のボランティアをした時は、寒さに震えていると、ランナーに「お互いがんばりましょう」と言われ、「心が一つになった気がして、心が温かくなった」そうです。ささやかなことでも、コツコツやっていれば、誰かを喜ばせることができることを教えてもらいました。【戸田晴葵記者】

永山瞳さん（54）（東京都港区）は、大阪、福岡、横浜など各地のマラソン大会でボランティアを50回以上、経験してきたそうです。ボランティアの楽しさは、「完走したランナーに感動を語ってもらうことで、一緒にゴールした気持ちになれること」だそうです。大阪マラソンは5回目の参加ですが、「大阪の人はオープンで話しやすく、やっていて楽しい」とのこと。「2020年は、東京オリンピック・パラリンピックでいそがしいけれど、大阪マラソンに必ず来ます」と約束してくれました。【中川崇記者】

宇治田篤さん
安部潔さん
福田拓矢さん
永山瞳さん
川澄記者撮影
受付ボランティアの皆さん

安部潔さん（52）（兵庫県宝塚市）は、走っているランナーを見て、「自分も1回は走ってみたい。でも、大変そう」と感じたそうです。福田拓矢さん（38）（大阪市淀川区）は、『ランナーから『おたがい、がんばろうね』と言われた時、『こちらこそ、がんばってくださいね』と思いつつ、心が一つになったように感じました』。永山さんは、「大阪の人は、東京の人と比べると、したしみやすくやさしい人が多いから、仕事がしやすい。なんども大阪に来たくなる」と話していました。東京から、わざわざ来たくなるくらい、大阪はいいところなのだと思いました。【川澄芽生記者】

力走支える人たち

公式スポンサー

3万2000人のランナーの受付場所となったインテックス大阪（大阪市住之江区）では、11月29、30両日、「大阪マラソンEXPO2019」が開かれました。多くの企業、団体がオフィシャルショップを出展し、ランナーや一般市民らでにぎわいました。

オプテージ

インターネットを使って ランナーに役立つサービス

ランナーズ・アイの仕組みについて、アシスタントマネージャーの藤井猛晴さん（44）=写真右=に聞きました。5kmごとに、ランナーの足に付けた計測チップでタイムを計り、走る速度を予測しています。「インターネットの技術を使って、ランナーや応援している人に役立つサービスがないかと探していて、できた」と藤井さんは話していました。

また、同社では、大阪マラソンを盛り上げるため、ランナーを応援するときに使うチアスティックを3万本用意し、来場者に配っていました。

【中川崇記者】

オプテージの「ランナーズ・アイ」は、インターネットを使ってランナーの走る姿を見て、ランナーの気分・体調などを分析するサービスです。気分・体調は、「よゆう」「つかれた」「へとへと」の3段階があり、止まっているランナーを探して、どんな感じで走っているかも見ることができます。藤井さんは「使いやすいように改善をしていきたい」と話していました。ぼくは、ランナーの気分や体調がわかる技術はすごいと思いました。

【奥田啓太記者】

川澄記者撮影

セイコーホールディングス

人工衛星を介したずれないタイマー

大阪マラソンでは、28台のスポーツタイマーを使っているそうです。スタート地点に1台、ゴールに2台、自動車に積むのが3台で、残りはコースの途中に置くそうです。僕は、高い位置にあるタイマーを、どのようにして動かしているのか疑問に思ったので、質問してみると、遠隔操作しているそうです。マラソンで何げなく見かけるタイマーにも、その裏で働いている人の苦労があることに驚きました。

【中山朝登記者】

大阪マラソンで使われるスポーツタイマーは、1台につき単一乾電池を8本使っていて、朝一番に電池を入れると、10時間は持つそうです。また、このタイマーには全地球測位システム（GPS）機能が付いているため、何台あっても、人工衛星を介して電波をやりとりし、時間がずれることはないです。同社スポーツ・ブランディング部（現スポーツ・企業文化部）副参事の内田祐司さん（50）は「そこが、セイコーの時計の強みでもある」と話していました。【山田寧々記者】

中山記者撮影

関西大学

重力を上手く使って 体に負担をかけないフォーム

人間健康学部
小田伸午（おだしんご）教授

山田記者撮影

関西大学のブースでは、人間健康学部の小田伸午教授（65）が、本番を翌日に控えたランナーたちのフォームをチェックし、体に負担をかけずに、タイムを上げる走り方をアドバイスしていました。「私の指摘を受けてフォームを変えただけで、自己ベストを20分更新したランナーもいる」という小田教授の説明に、こども記者たちは驚いていました。

西田記者撮影

最初、僕は小田教授と「力くらべ」をしました。小田教授の腕を僕が持ち上げることができれば、僕の勝ちというルールです。小田教授によると、多くの人は、自分の腕の力だけで持ち上げようとしますが、それは間違いです。小田教授に言われた通りに、重力を生かし（地面からの反発力をいかし）て押し上げると、そんなに力を入れなくても、 腕を持ち上げられました。 いつもは腕相撲が弱い僕でも、 大人の小田教授に勝てました。

同じように、走るときも、まっすぐ前を見て、脚で重力をうまく使って走ると、速く走れたり、けがをしにくくなったりするそうです。小田教授は、こうしたことを広めるため、大阪マラソンのランナーたちを熱心に指導していました。

【西田吾怜記者】

私たちは、小田教授に、自分の走り方を見てもらうため、ランニングマシンに乗って、走ってみました。ランニングマシンは、電気で路面（ベルト）が動くタイプと、自分で走ってベルトを動かすタイプの2種類がありました。電動式のマシンは脚が楽だったけれど、自分の脚で動かすマシンは、重くてつらかったです。でも、小田教授は「筋肉がつくので、自分で動かす方がいい」と言っていました。

【田渕咲夏記者】

アンバサダー

どちらかといえばマラソンは苦手…

赤星（あかほし） 憲広（のりひろ）さん

1976年愛知県出身。2001年阪神タイガース入団。1年目に盗塁王と新人王を獲得。セ・リーグ記録となる5年連続盗塁王に輝き、ベストナイン2回、ゴールデン・グラブ賞6度受賞。2009年、試合中のけがで現役引退。現在は野球解説者として活躍。

赤星さんは、車いすランナーと一緒にファンランを走っていました。ファンランについて、「フルマラソンが走れない小さな子どもも走れて、家族で参加できる良い企画です」と話していました。 【中川崇記者】

赤星さんは、どちらかというとマラソンは苦手で、短距離の方が得意なのだそうです。それでも、大阪マラソンは、「周りの人たちが熱い応援をしてくれるから、最後まで走れる」と話していました。そして、もし、自分が応援する立場だったら、「がんばれ」というのではなく、「あと、○○kmだよ」と、目標が分かり、やる気が出るように応援したいと言っていました。そんなことを考えている赤星さんは素晴らしいと思いました。

【川澄芽生記者】

赤星さんは、ファンランでスタートする時も、ゴールする時も、周囲の人に手を振り、笑顔をふりまいていました。周りの人を楽しませたい、喜ばせたいという気持ちが強く伝わってきて、すごいと思いました。

【多賀谷碧記者】

＼ファンラン／

赤星憲広さんと寺川綾さんは、今回新たに取り入れられたファンランに参加し、大阪マラソンを盛り上げました。ファンランは、大阪市役所前を発着する1・3kmのコースで、一部、大阪マラソンと同じコースも走ります。

「大阪マラソンは、ふだんは走ったり、歩いたり出来ない大阪の街の車道を走れるのがいい。ちょうど、紅葉がキレイだし」と赤星さんが言っていました。それを聞いて、御堂筋の街路樹を見ると、確かに今年は紅葉がキレイだと気付きました。大阪市役所前では、いろんな団体がダンスをしていました。踊りがてきぱきしていて、止めなどがはっきりしていて、すごくきれいでした。ぼくにはできそうになかったです。【奥田啓太記者】

寺川（てらかわ） 綾（あや）さん

1984年、大阪市生まれ。3歳から水泳を始め、高校2年時の2001年、世界水泳選手権に出場した。2012年のロンドン五輪の女子100メートル背泳ぎで銅メダルを獲得し、400メートルメドレーリレーでも銅メダルに輝いた。現在はミズノのスイムチームコーチとして後進の指導に当たり、スポーツキャスターとしても活躍する。

寺川さんは、ファンランについて、「子どもも大人も楽しそうにゴールに向かう姿がよかった」と感じたそうです。また、「大人の方が、子どもよりも楽しそうに走っていたのが印象的だった」とも話してくれました。私は、ファンランの発着地点の大阪市役所前で、ランナーを撮影しましたが、みんな笑顔で楽しそうに走っていました。こういうところが、大阪マラソンの魅力の一つなんだなと感じました。【山田寧々記者】

ファンランに参加した感想を聞くと、寺川さんは「今回は、大阪マラソンのコースも変わり、いつもと違う景色を見られて楽しかった。親子で走っている人も楽しんでいて、とても気持ちがよかった」と話してくれました。 【田渕咲夏記者】

大阪マラソンの魅力について、寺川さんは「全ての人々の笑顔と、ふだん走ることの出来ない大阪の街を走れるところ」と表現しました。僕も大人になったら、大阪マラソンを走り、笑顔の温かさと大阪の街の風を感じてみたくなりました。【中山朝登記者】

魅力は、全ての人々の笑顔

＋

魔物が出るコースの後半に 言葉でランナーの背中を押したい

応援団長 森脇（もりわき） 健児（けんじ）さん

1967年、大阪府枚方市生まれ。枚方市立第一中学と洛南高校では陸上部に所属し、100メートル走でインターハイ出場。現在はお笑いタレント。第4回から大阪マラソン応援団長を務める。

森脇さんに、もし自分が大阪マラソンの応援をするなら、コースのどの辺りで応援したいかと聞いてみました。森脇さんは「俺が応援するなら後半がいいなぁ。マラソンでは、35km地点、40km地点では魔物が出るって言われている。ランナーが、そこら辺に来たら、もう疲労困憊（こんぱい）で顔が変わってくるねん。そういう時に、俺は言葉でランナーの背中を押してやりたい」。そう笑顔で話してくれました。 【山田寧々記者】

森脇さんは、大阪マラソンを祭りに例えます。「みんなでおみこしをかついでいる」と。ぼくは、ランナーだけでなく、応援する人や、ボランティアの人たちみんなが一丸となって、大阪マラソンを支えているのだなと思いました。 【西田吾怜記者】

森脇さんは、大阪マラソンの前日、一般ランナーに「あせらないでください」「自分のペースでゆっくりと走って」とアドバイスを送っていました。また、走っている最中は「まだ26km、まだ27km（しか走っていない）と弱音を吐くのではなく、もう26km、もう27km（も走った）と、ポジティブに考えてほしい」とも話していました。 【戸田晴葵記者】

森脇さんに、「マラソンの練習中に、つらくてやめたいと思ったことはありませんか」と質問すると、「いつも、やめたいと思っている。でも、そこを乗り越えることで、本番のときに生きてくる」と答えました。本番前の食生活で気をつけていることを尋ねると、「お酒はのまない」といい、パスタやお米など炭水化物をよく食べるそうです。「規則正しく、早寝早起きをして、小学生みたいな生活をしている」と笑顔で教えてくれました。

【田渕咲夏記者】

Osaka Marathon Ambassador

こども 夢・創造プロジェクト

当プロジェクトは、大阪市内の小・中学生を対象にした体験プログラムで、2007年にスタートしました。独自のコンセプトのもと、大阪市と民間企業・団体とで構成された実行委員会が企画・運営しています。
12年間で、のべ4,731人が204のプログラムに挑戦しました

目的
体験プログラムの実施を通じて、こどもたちの個性や創造性、将来の夢や希望を育むことにより、次代の担い手となる青少年の健全育成をめざします。

特色

- **Point1 講師**：各分野のプロフェッショナルが講師をつとめるより本格的な体験
- **Point2 参加方式**：意欲をもって自主的・自発的に個人単位で選択・参加
- **Point3 分野**：学校の教科等では体験の機会が少ない分野やより発展させた分野
- **Point4 内容**：ちょっとだけの体験ではなくじっくり取り組む実践的な内容
- **Point5 協働**：各プログラムは民間企業や団体、専門学校等の協力を得て開催

2019年度 前期プログラム活動報告

夏休みを中心に開催した前期プログラムでは、162名に参加いただきました。
夢に一歩近づいたこどもたちと保護者の方の声を一部ご紹介します。
（写真は一部加工しています）

ウッドクラフト

プロの家具職人の指導で、カンナやノコギリなど本格的な工具を使って、塗装したり自分でデザインしたオリジナルのテーブルを作りました。

講師　荒西浩人氏（「6（rock）」（家具職人））

「保護者の声」

ケガなどいろいろ心配な事もありましたが、プロの先生方のお陰で安心して参加させることが出来ました。参加する度に楽しそうで、大工という夢に向かってさらに頑張りたい、という気持ちになったようです。本当に参加させて良かったと思います。（小6・女子）

「自分一人で完成させる」というのを、すごく強く意識していただいている内容で、初日は少し心配でしたが、回を重ねるにつれ、こどもが楽しそうに成長しているのがわかりました。（小4・男子）

「参加者の声」

色々な道具の使い方が、実践しながら分かったし、だんだん出来上がりが近づいていくごとに、どんどん面白くなって出来上がった時、ものすごく達成感がわいてきて、作ったものを使うこともすごく楽しみになった。（小5・女子）

先生が分かりやすく教えてくれたので、最後までやることが出来た。（小5・女子）

■協力／6（rock）woodworks&life オスモ&エーデル（株）

キャラクターやマンガを描いてみよう！

プロの指導で、パソコンで絵を描くソフトをつかったり、手書きでペン入れ、ベタ塗り、トーン貼りなどの基本を学んで、オリジナルキャラクターやマンガ原稿を描きました。

講師　井土かな子氏・藤田陽平氏（大阪芸術大学附属大阪美術専門学校講師）ほか

「参加者の声」

先生に教えてもらって、もっともっと絵が好きになり自分の夢も広がりとても良かったです。（小6・女子）

私はマンガ家になりたいという夢があって、でも「私には無理かな」と思っていたけどこのプログラムを通して、私は「マンガ家に絶対なる」という決心がつきました。これからもっともっとPCを使って描くことが増えると思います。（小6・女子）

「保護者の声」

独学でやってきていたので、今回プロのご指導を頂けて、知識が増えた様に思います。将来について、増々この道で進みたいという気持ちが強くなったようです。（中1・女子）

参加後はもっと絵を描く事に興味を持ち、将来は専門学校へ行ってもっと勉強したいと言うようになりました。（小4・女子）

プログラムに参加して、絵を描くという事は、ただ好きな様に描くのではなく、バランスを考えるのに算数の勉強が必要だったり、文章を考えるのに国語力が必要だったり、物語を考えるのに色々な知識や経験が必要だったり、単純に絵を上手く描くだけでも、今の自分が行わなくてはいけない事が、具体的に見えた様に思いました。（小4・女子）

■協力／大阪芸術大学附属大阪美術専門学校

WEB 公式ホームページもあわせてチェック！

参加申込書ダウンロード　プログラムレポート　最新情報　など

www.kodomo-yumepro.org

これまでの開催プログラムレポート（写真／映像／参加者・保護者の声／講師インタビューなど）や最新情報も発信中！プログラム選びの参考にしよう！

細胞のふしぎ
～細胞の染色標本を作り、観察しよう～

講師　大塚一幸氏（大阪バイオメディカル専門学校校長）ほか

再生医療の2つの分野をぜいたく体験！細胞工学の最前線で活躍する実験機器に触れ、細胞のふしぎを体感しよう！バイオ業界「匠の世界」、病理標本を作製し、顕微鏡で観察しました。

「保護者の声」

参加者で将来の希望を話し合ったそうですが、色々な夢を持った方がいて、息子はとてもイキイキと話してくれました。今の体験で学んだことで勉強に対しても行動的になった様に思えます。（中2・男子）

普段学校では出来ない事を体験することが出来て、とても良い経験になったと思います。子どもがとても楽しかったと言っており、見学していた私も興味深かったです。（小6・男子）

「参加者の声」

心臓の細胞や、脾臓の細胞を初めて見てとても良かったです。また自分の細胞を見たときは感動しました。細胞の染色もいろんな液に漬けないといけない事を知って、すごく大変だと思いました。たくさんの事を知ったし、面白かったので良かったです。（小6・女子）

将来面白そうなことがもっと増えた。（中2・男子）

■協力／大阪バイオメディカル専門学校

書の体験 ～スーパーキッズ書道～

プロの書家の指導を受け、自分の決めた語句を徹底的に練習し、日常ではない書道を体験しよう！
最終回は超特大の筆を使い、大きな書の作品作りに挑戦しました。

講師　福光敬祥氏（書家）ほか

「参加者の声」

習字とはまた別の作品・芸術が出来たし、初めて「習道」というものをしたのでとても楽しかったです。（小6・女子）

書道の奥深さを改めて知ることが出来た。（中2・男子）

大きな字を書くのは難しかった。（中1・男子）

「保護者の声」

書道に対する自信がさらについたと思います。もっと好きになったみたいです。先生達のお話を通して、将来の選択肢の一つとして刺激を受けました。また来年も参加したいです。（中1・男子）

長時間書道を体験することで、集中力が身についたように思います。文学についても学ぶことが出来、書道に対する興味が更に高まった様に感じました。書道を学ぶ事が出来る大学がある事を知って、関心を持っていました。（中2・女子）

■協力／NPO法人　書道スーパーキッズの会

その他の前期プログラム…

- **保育士の体験**　■協力／大阪市こども青少年局
- **水の化学** ～水の分析と海遊館の水質しらべ～　■協力／一般社団法人分析研修センター（株）海遊館
- **作る・動かす・考える ロボットエンジニアリングスクール**　■協力／（株）ワオ・コーポレーション　WAO!LAB（株）エンジンズ　キッズプロジェクト
- **ネイリスト体験**　■協力／ECCアーティスト美容専門学校
- **落語家になってみよう！**　■協力／（株）オフィス染　此花千鳥亭
- **建築の世界を体験** ～近代建築の大巨匠に模型づくりで挑戦！～　■協力／大阪工業技術専門学校　重山建築研究室
- **ゲームプログラミング体験**　■協力／清風情報工科学院

令和2年1月17日（金）～2月5日（水）
大阪市立中央図書館
令和2年3月23日（月）午後～3月27日（金）最終日は午後2時まで
大阪市役所正面玄関ロビー
において、写真や作品等の展示を行います。ぜひ、お越しください。

効果　本事業の参加者を調査し効果を測定した結果、こどもたちの「生きる力」に関わる能力が向上していることが明らかになっています。

「こども 夢・創造プロジェクト」は大阪市と民間企業・団体の協働により実施しています。

実行委員会（2019年度）　実行委員長　今西幸蔵（桃山学院教育大学教育学部客員教授）

構成団体：SPELLBOUND（www.spell-bound.jp）　読売新聞大阪本社　大阪市

協賛団体：KIDS STATION

協力団体（2019年度・順不同）
6（rock）woodworks & life／オスモ&エーデル株式会社／一般社団法人分析研修センター／株式会社海遊館／（株）ワオ・コーポレーション　WAO!LAB／（株）エンジンズ　キッズプロジェクト／ECCアーティスト美容専門学校／（株）オフィス染　此花千鳥亭／大阪工業技術専門学校／重山建築研究室／大阪芸術大学附属大阪美術専門学校／清風情報工科学院／大阪バイオメディカル専門学校／NPO法人　書道スーパーキッズの会／（株）アカルプロジェクト／（株）スペルバウンド／大阪アニメーションカレッジ専門学校／読売新聞大阪本社／大阪マラソン組織委員会／アークシステムワークス（株）
大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学／エール学園／大阪市こども青少年局